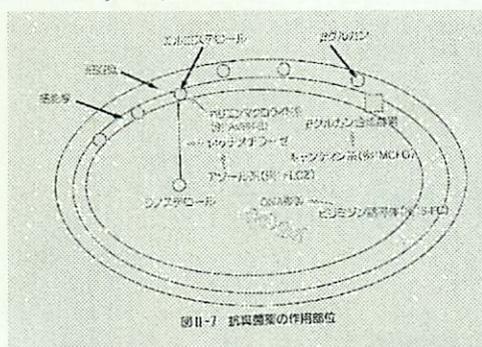


抗真菌薬

4A 班 植田 宮地 山川

■ 国内で全身投与が許可されている抗真菌薬は以下の通りである。

- ポリエンマクロライド系
 - ・ アムホテリシン B
- アゾール系
 1. イミダゾール系
 - ・ ミコナゾール
 2. トリアゾール系
 - ・ フルコナゾール ・ イトラコナゾール ・ ボリコナゾール
- キャンディン系
 - ・ ミカファンギン
- ピリミジン誘導体
 - ・ フルシトシン



■ 作用機序・部位について (右図)

真菌は原核細胞である細菌に比較し、より人間の細胞に似た構造・代謝を持つ真核細胞で作られている。

・アムホテリシン B: 真菌細胞膜のエルゴステロールに直接作用し不安定化させ、細胞膜に孔を開け真菌内容を孔から漏れ出させる。このため、真菌の代謝に依存しない抗真菌作用を発揮する。

・アゾール系: 真菌細胞膜におけるエルゴステロール合成阻害である。アムホテリシン B と異なり、これらの薬物は静菌的であり、殺菌的ではないと考えられる。トリアゾール系の抗真菌薬はイミダゾール環に N 原子をもう 1 つ導入したものである。

・エキノキャンディン系: エキノキャンディン系は、ヒトの細胞には含まれず、真菌細胞壁合成には必須である β -1, 3-グルカン合成酵素を阻害する。Candida 属に対しては殺菌的に Aspergillus には静菌的に作用する。最適治療対象は、現在のところ Candida 症である。

・フルシトシン: 真菌細胞内において細胞毒性を有する 5-fluorouracil に変換されることによって抗真菌活性を示す。耐性誘導は単剤で用いられた場合に限られるので、ほとんどの場合アムホテリシン B と併用される。

参考文献; レジデントのための感染症診療マニュアル第 2 版 (医学書院)

Harrison's Principles of Internal Medicine (McGraw-Hill Professional)

Up to date(http://www.uptodate.com/online/content/topic.do?topicKey=antibiot/9969&source=see_link)